

平成19年度 主催の講演会レポート

自閉症のバリアフリー2 ～ライフステージに合わせた取り組み～

昨年度2月24日に行った講演会、自閉症のバリアフリー2の概要と印象に残ったものをご紹介します。講師は岡山の川崎医療福祉大学 講師の重松孝治先生です。今だから明かせますが、講演は実は綱渡り。前日からの雪で新幹線が遅れてしまい、一時は講演の開始を遅らせようかと考えたほどでした。先生から「大曾根に着きました」の連絡を頂いた時は「ギリギリ間に合うぞ」と一人ガッツポーズをしていました。先生の到着は講演開始のわずか25分前、ろくに打ち合わせもしないままのスタートでした。

講演は自閉症の理解、障害特性の説明から始まり 講演全般に言えることでしたが、先生のお人柄でしょうか。本当に丁寧に説明されていました。ここは、会場の皆さんの知識をある程度均一化するためには欠かせないポイントなのです。講演の中で心に残った具体的な内容としては、教育、支援、療育のターニングポイントつまり、生活全般にわたる様々な問題点を自立に向けた準備に重点を置く。「トライアングルエフェクト」という考え方。簡単に説明すると、お子さんが小さいうちは集中しやすいようにしっかり工夫する、などの環境側を整えた支援（構造化）を重点にして、本人ができることを、増やすことを中心に置き、成長につれてその、出来ていることを、確実にどこでもできるようにしていく事に重点を移していく（般化、脱構造化）。頭では分かっているのですが、自分も親として支援のターニングポイントを見落としているなと痛感させられました。一貫して本人の為に最良か？を常に自分に問いかける姿勢が大切だと感じました。又、それぞれの世代での具体的な支援の紹介や、支援そのものの目的、注意点。ありがちな失敗例などもとてもわかりやすく説明されていました。この失敗例を先生に学ぶという事は実は先生にお願いしておいたのですが、惜しげもなく披露されていて、本当にありがたかったです。誰だって上手くいかなかったことを話すのは嫌なものです。先生だって試行錯誤しているんだと。伝えて欲しかったのです。考え方はまず、良くその人を観察し評価して仮説を立て、企画実践して、結果を評価しエラーを潰していくというサイクルを回すこと。逆に言うと最初から上手くいくはずが無いということです。勿論上手くいくにこしたことはないのですが、私たちはしっかり学ばなければなりませんね。しかも支援をすこしずつ減らしていくことも将来像を見据えて同時に計画しておくわけです。口で言うほど簡単なことではないのですが、親や直近の支援者は目の前の問題に振り回され、そんなことを考える暇もないなんていう状況がよくあります。支援の仕方を定期的に振り返る際のポイントだと思います。

- 1 障害を「治す」「無くす」ことが目標でない
 - 2 自閉症の子どもは、自閉症の大人になる
- ↓
- 3 だから、自閉症として生きることを支援する
 - ・まずは本人の障害特性を尊重する
 - ・意味理解を助ける→そして意味を共有する
 - ・安心のある生活・環境→自立した活動
 - ・肯定的な経験によって自信を高め、適応を高める
 - 4 目標は地域で、適切な支援を受けながら、
 - 5 可能な限り自立すること

先生がまとめて使われたものをそのまま転載いたしました。今回の講演はライフステージの主演は自閉症です。というテーマでした。その人は自閉症なのです。治らないし問題は山のようにあるのです。でも、適切な支援を受けることで、その人の人生の可能性は広がっていくのです。私たちもそのために、少しでもお役に立てたらなと思っています。



講演中の様子



講演終了後先生を囲んで

おすすめ図書コーナー

簡単な描画と色をつかい進行中の会話を図示することで、自閉症の子どもとの情報交換、コミュニケーションを支援する道具、コミック会話本書は、その実践的な使用法を懇切丁寧に解説した初の「コミック会話」入門書。巻末にはコピーして使えるシートを収録。 翻訳者は門先生！



編集後記

大きな地震や天災が、あちこちで起きていても、どういふわけかこの地域だけは避けるように地震ないなー。近く来る予感が・・・我が家はまったく防災をしていない。私の息子に避難所生活など適応できるはずも無く考えられる限りの対策をしておくべきと思いつつ・・・天災は忘れた頃にやってくるって言います。それなら、忘れないようにしていれば防災だ！ なっている訳ないか